

岐阜県経済の現状のポイント（平成 25 年 5 月分）

【生産活動】

<製造業全体>

- 製造業全体では、円安により収益面で改善傾向にあるものの、原材料価格の上昇が生じている。受注や生産が増加するなど、比較的明るい声が多い。

<その他機械産業等>

- 生産用機械においては、引き合いが増加するとともに、海外からの受注が増加している。

<直近の円安の動き>

- 輸出が増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。

<地場産業>

- 木工で明るい声も聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。

【設備投資】

- 設備投資意欲DIは、改善傾向。

「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加した。

- 4月の住宅着工は、持家など全ての区分で増加したことにより、全体では前年同月比38.7%の増加となった。
- 工事関係では、24年度内に実施された公共工事請負額は過去最低を更新。一方で大型補正による公共工事を期待し業界の雰囲気は明るい。

【消費・観光】

- 消費について、衣料品はGW以降の気温上昇に伴い夏物が順調な伸び、食料品は安定した動き。
- 観光は、総じて前年の水準を概ね確保しており、とりわけ、インバウンドは台湾やタイ、インドネシアなどアジアの幅広い国籍で好調な動きが見られ、宿泊客を底上げ。

【資金繰り・倒産】

- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。
- 4月の県内倒産件数は16件、負債総額は43億2300万円となった。負債総額10億円を超える大型倒産が2件、1億円以上の倒産が6件あったが、依然として大半は1億

円未満の小口倒産が占めている。

【雇用】

<求人・求職動向>

- 受注量の増加から、残業や非正規の雇用が発生している。正社員の雇用については専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。

<新卒者の就職動向>

- 高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。
- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。